

2008年8月6日

2009年3月期第1四半期決算の概要

東レ株式会社
専務取締役 齊藤典彦

I. 2009年3月期第1四半期決算の概要

2009年3月期第1四半期決算の概要	(P3)
事業セグメント別売上高・営業利益	(P4-12)
営業利益増減要因分析	(P13)

II. 2009年3月期通期連結業績見通し

2009年3月期通期連結業績見通し	(P15)
期初見通し→今回見通し 業績修正の要因分析と対策	(P16)
事業セグメント別売上高・営業利益見通し	(P17)
事業セグメント別通期営業利益期初見通しとの差異	(P18)
原料価格の見通し	(P19)

<参考資料>最近のトピックス	(P21-23)
----------------	----------

I . 2009年3月期第1四半期決算の概要

2009年3月期第1四半期決算の概要

単位：億円

単位：億円

	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	増減
売上高	3,858	3,874	+16 (+0.4%)
売上原価	3,081	3,149	+69 (+2.2%)
売上総利益	777	725	-53 (-6.8%)
(売上高総利益率)	20.1%	18.7%	-1.4 ポイント
販売費及び 一般管理費	582	592	+10 (+1.8%)
(売上高販管費比率)	15.1%	15.3%	+0.2 ポイント
営業利益	195	132	-63 (-32.3%)
(売上高営業利益率)	5.1%	3.4%	-1.6 ポイント
営業外収支	▲ 8	▲ 8	-0
経常利益	188	125	-63 (-33.6%)
特別損益	5	▲ 32	-37
税前利益	193	93	-100 (-51.8%)
四半期純利益	102	44	-58 (-56.9%)

	08年3月末	08年6月末	増減
資産合計	16,982	16,653	-329
負債合計	10,561	10,511	-49
純資産合計	6,422	6,142	-279
有利子負債残高*	5,912	6,228	+317

* 08年6月末はリース債務を含む

為替レート

<円/US\$>

(08/3 1Q) → (09/3 1Q)

期中平均 : 120.8 → 104.6

期末 : 123.3 → 106.4

<円/ユーロ>

(08/3 1Q) → (09/3 1Q)

期中平均 : 162.7 → 163.4

期末 : 165.6 → 168.1

原油価格

<US\$/バレル> (DUBAI FOB)

(08/3 1Q) → (09/3 1Q)

期中平均 : 64.8 → 116.8

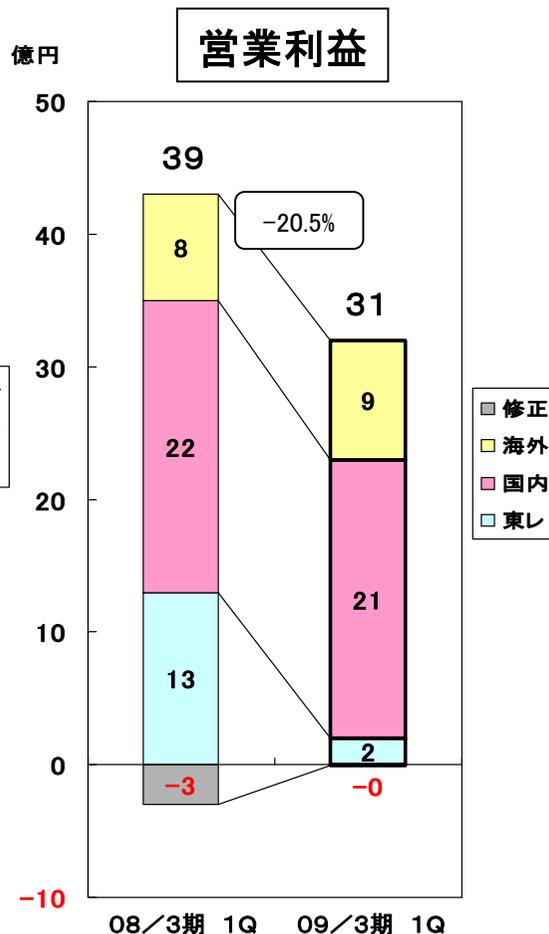
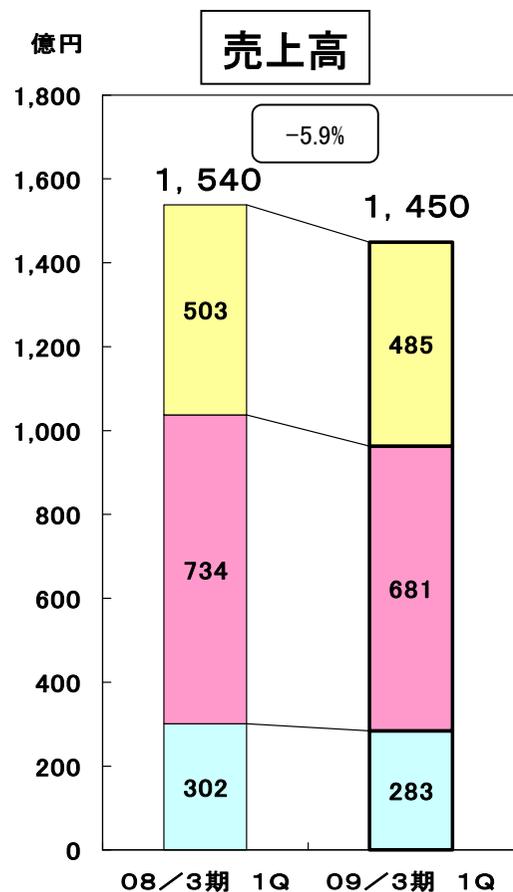
(注) 3月期決算会社は4～6月の業績、12月期決算会社は1～3月の業績を連結

事業セグメント別売上高・営業利益

単位：億円

	売上高			営業利益		
	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	増減	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	増減
繊維	1,540	1,450	-90 (-5.9%)	39	31	-8 (-20.5%)
プラスチック・ケミカル	981	1,068	+87 (+8.9%)	42	35	-6 (-15.0%)
情報通信材料・機器	664	623	-41 (-6.1%)	61	36	-26 (-41.9%)
炭素繊維複合材料	193	197	+4 (+2.0%)	38	33	-4 (-11.8%)
環境・エンジニアリング	329	386	+57 (+17.5%)	11	▲ 7	-18 (-)
ライフサイエンスその他	152	150	-2 (-1.2%)	9	1	-7 (-85.5%)
(内医薬・医療材)	103	104	+2 (+1.7%)	1	▲ 6	-8 (-)
計	3,858	3,874	+16 (+0.4%)	200	130	-70 (-35.1%)
消去又は全社				▲ 4	3	+7
連結	3,858	3,874	+16 (+0.4%)	195	132	-63 (-32.3%)

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

急速に進む原燃料価格上昇によるコストアップを価格転嫁や高付加価値品へのシフトではカバーし切れず、また、価格転嫁を進めるために数量を調整している側面もあり、減収減益。

国内子会社

商事子会社の大手SPA向け等 Apparel製品は堅調に推移したが、不採算事業の見直しを進めたこと等により減収、円高による輸出採算悪化等もあり、若干の減益。

海外子会社

マレーシア、タイのポリエステル・綿混織物や英国の長繊維織物の販売量が落ち込み減収も、原燃料価格高騰の影響はあったものの、欧州の人工皮革事業やタイのエアバッグ用繊維・織物事業などが好調に推移したこと等により若干の増益。

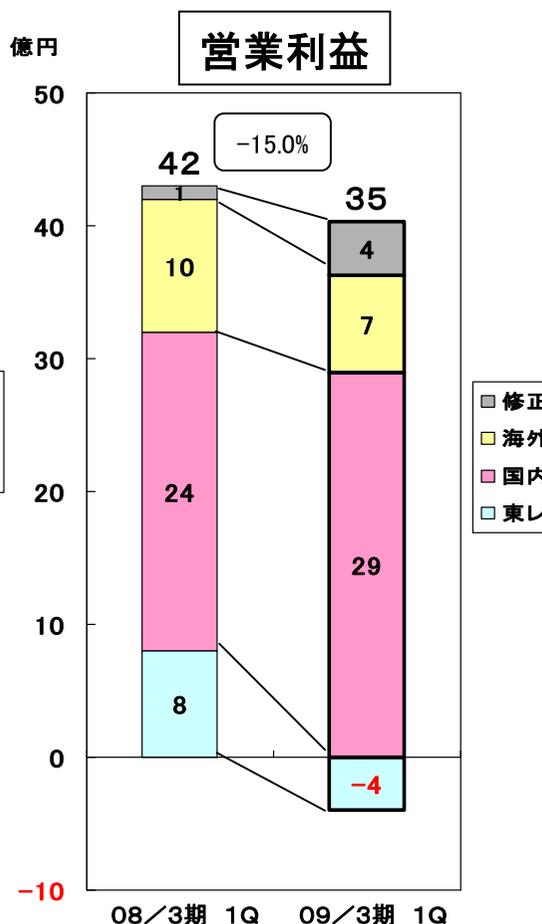
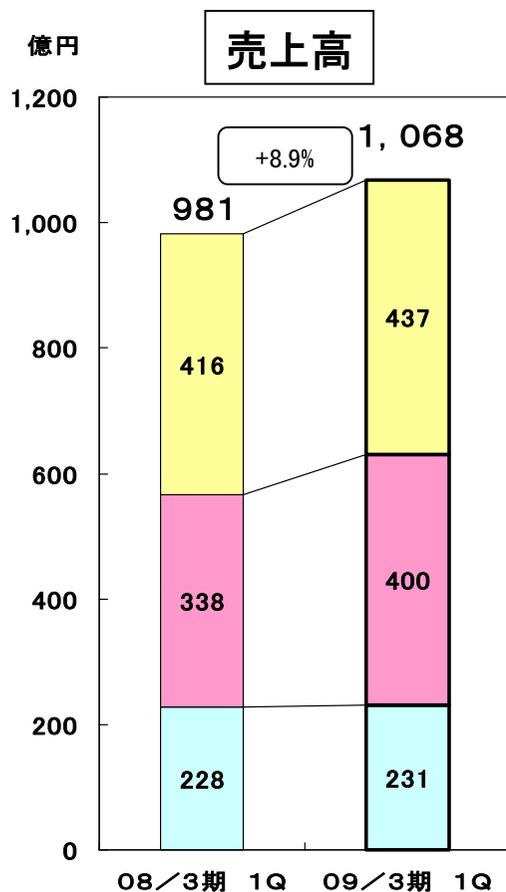
<主要関係会社>

国内： 東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア： PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米： ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂事業では自動車用途が堅調に推移し、フィルム事業も太陽電池用途やハイブリッドカー向けコンデンサー用途で売上を拡大し、増収。一方、原燃料価格高騰やABS樹脂設備の定期修繕の影響によるコストアップ等により、減益。

国内子会社

商事子会社が順調に売上を拡大したほか、ファインケミカル子会社も堅調に推移し、増収増益。

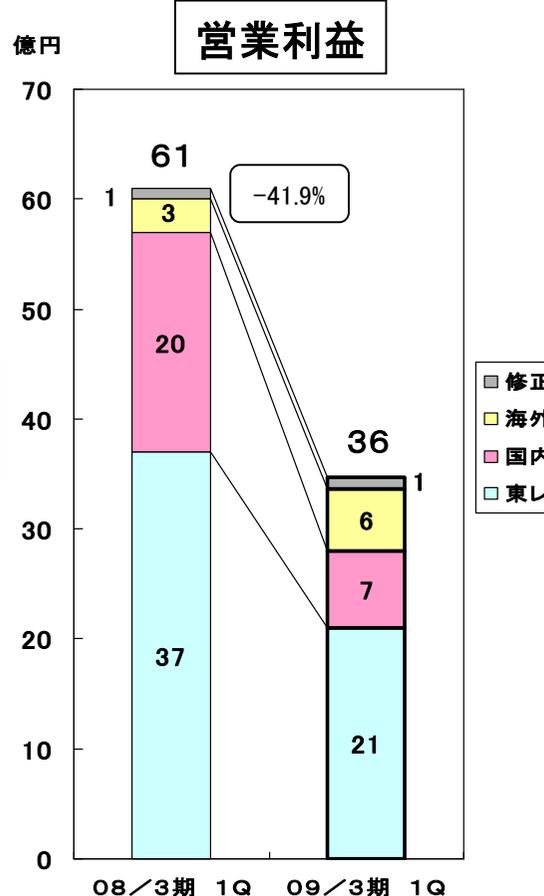
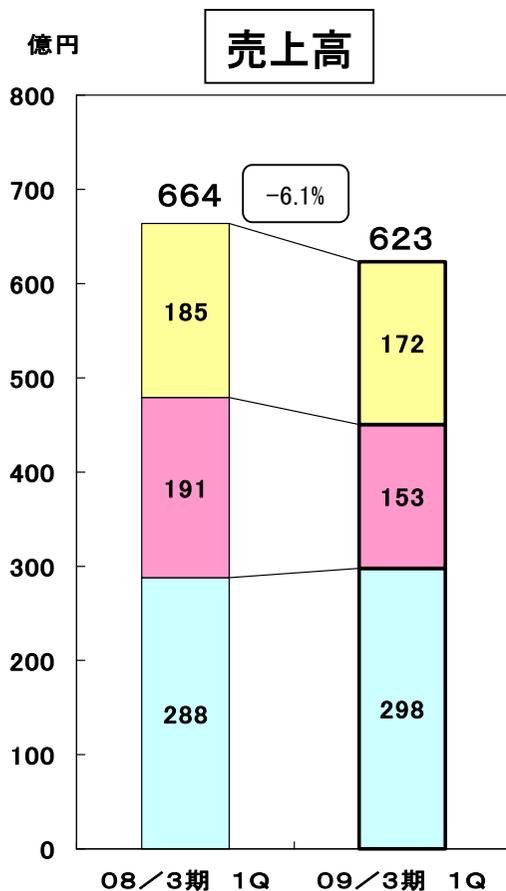
海外子会社

マレーシアの樹脂子会社でABS樹脂の増設設備が稼働を開始したことに加え、韓国のフィルム子会社が拡販を進め増収も、欧米・アジアの各子会社とも原燃料価格高騰の影響を受け、減益。

<主要関係会社>

国内： 東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他
海外： TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

事業セグメント別業績(情報通信材料・機器)



特記事項

東レ

フラットパネルディスプレイ用PETフィルム、液晶カラーフィルターが売上を伸ばしたこと等により増収も、回路材料や印写材料が低迷した事に加え、一部フィルム設備の定期修繕の影響によるコストアップ等により減益。

国内子会社

IT関連機器子会社の液晶製造装置の売上減少を主因に減収減益。

海外子会社

韓国のフィルム子会社が磁気材料の売上を減少させたこと等により減収。一方、同じく韓国の回路材料子会社が堅調に売上を伸ばしたことを主因に増益。

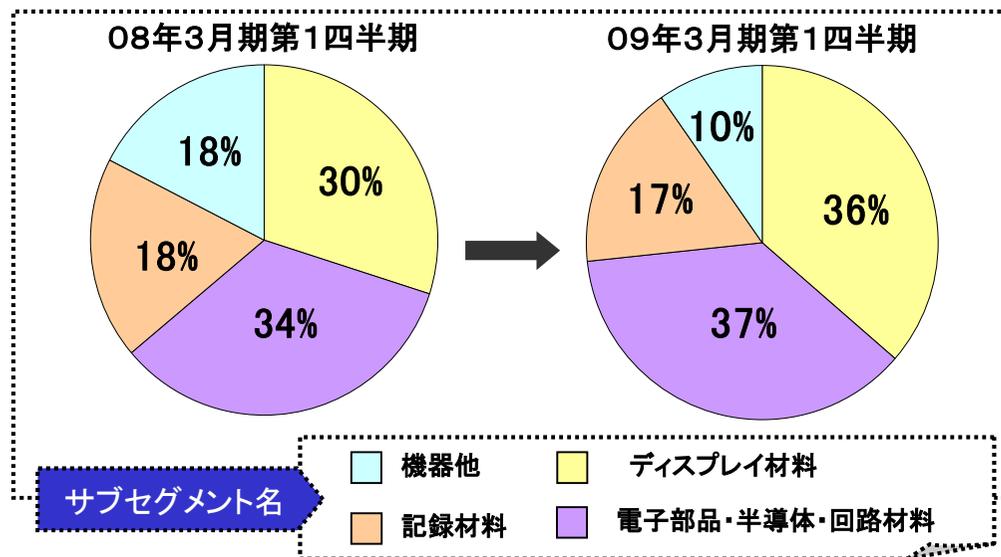
<主要関係会社>

国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国) 他

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高比率】



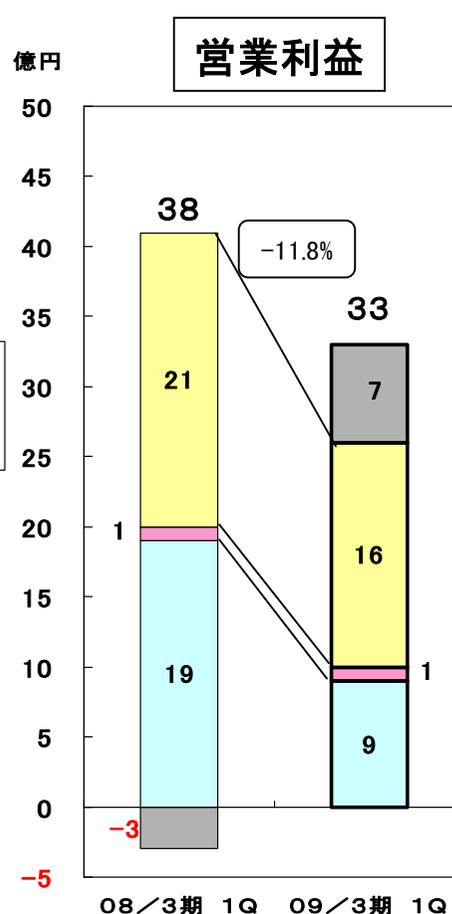
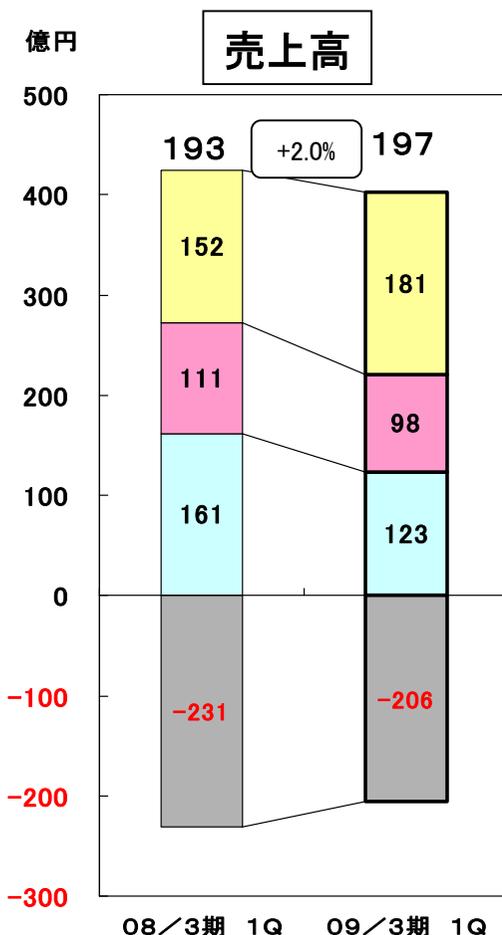
【サブセグメント別売上高推移】

(単位: 億円)

サブセグメント	08年3月期第1四半期	09年3月期第1四半期	増減率
ディスプレイ材料	199	225	+13%
電子部品・半導体・回路材料	225	230	+2%
記録材料	122	107	-13%
機器他	117	62	-47%
情報通信材料・機器セグメント合計	664	623	-6%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon) ・受容紙用フィルム、印写材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

事業セグメント別業績(炭素繊維複合材料)



特記事項

東レ

航空宇宙用途、スポーツ用途の自転車向け、産業用途では欧州向け高機能炭素繊維の輸出が好調に推移したが、前年同期にあった機械輸出が無くなったことや前年同期に一部の産業用途の出荷案件が集中したことに加え円高の影響や四川大地震の影響でノートPC向け筐体の出荷調整があった事など、特殊要因で、減収となり、原燃料価格高騰の影響や08年1月に稼働を開始した炭素繊維生産設備の償却負担増等もあり、減益

国内子会社

円高の影響を受け、減収。

海外子会社

航空宇宙用途、産業用途が好調に推移するも、原燃料価格高騰の影響に加え、07年8月に稼働を開始した欧州の炭素繊維生産設備の償却負担増等もあり、増収ながら減益。

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

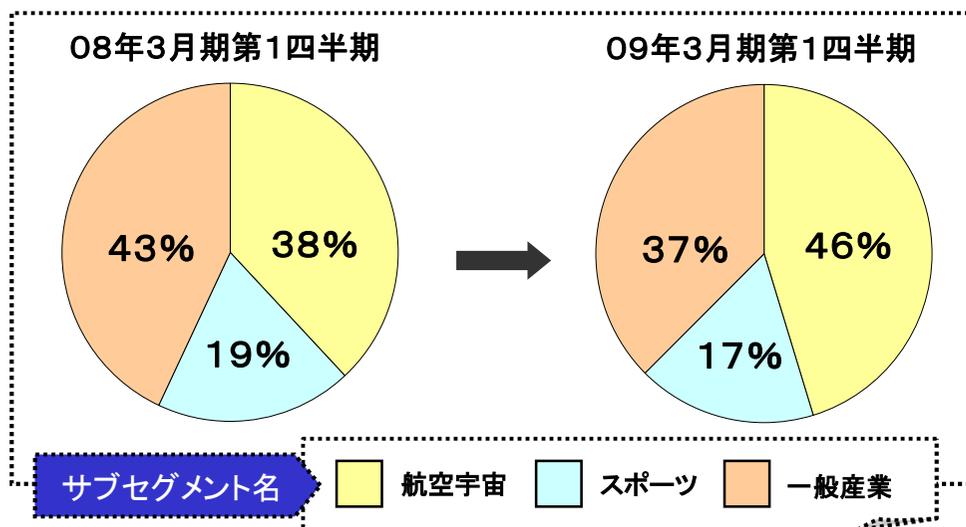
<主要子会社>

国内：東レインターナショナル

海外：SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高比率】



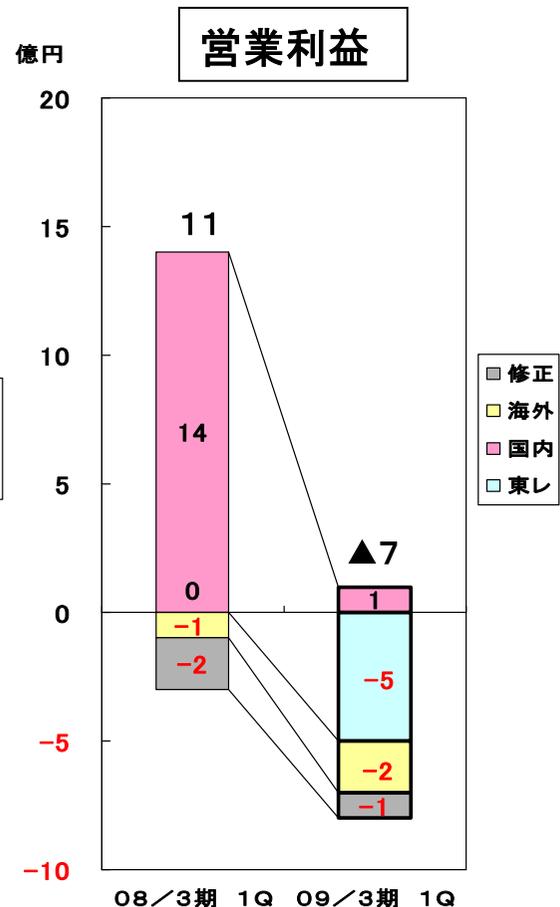
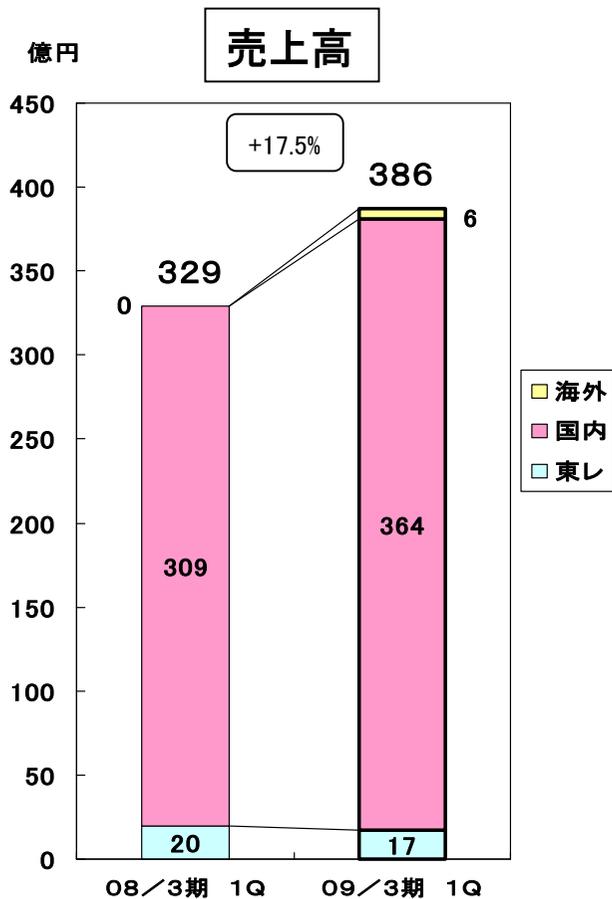
サブセグメント名	用途
航空宇宙	民間航空機 人工衛星 他
スポーツ	ゴルフ 釣り竿 自転車 ラケット 他
一般産業	圧力容器・タンク 自動車 船舶 風車 パソコン用筐体 土木建築 他

【サブセグメント別売上高推移】

(単位:億円)

サブセグメント	08年3月期 第1四半期	09年3月期 第1四半期	増減率
航空宇宙	73	89	+22%
スポーツ	37	34	-8%
一般産業	83	74	-11%
炭素繊維複合材料 セグメント合計	193	197	+2%

事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



特記事項

東レ

RO膜やMBRが欧米・中東を中心に順調に受注を拡大し、また、家庭用浄水器も好調に推移するも、大型案件の工期遅れや円高の影響等に加え、事業拡大に伴う費用増もあり、減収減益。

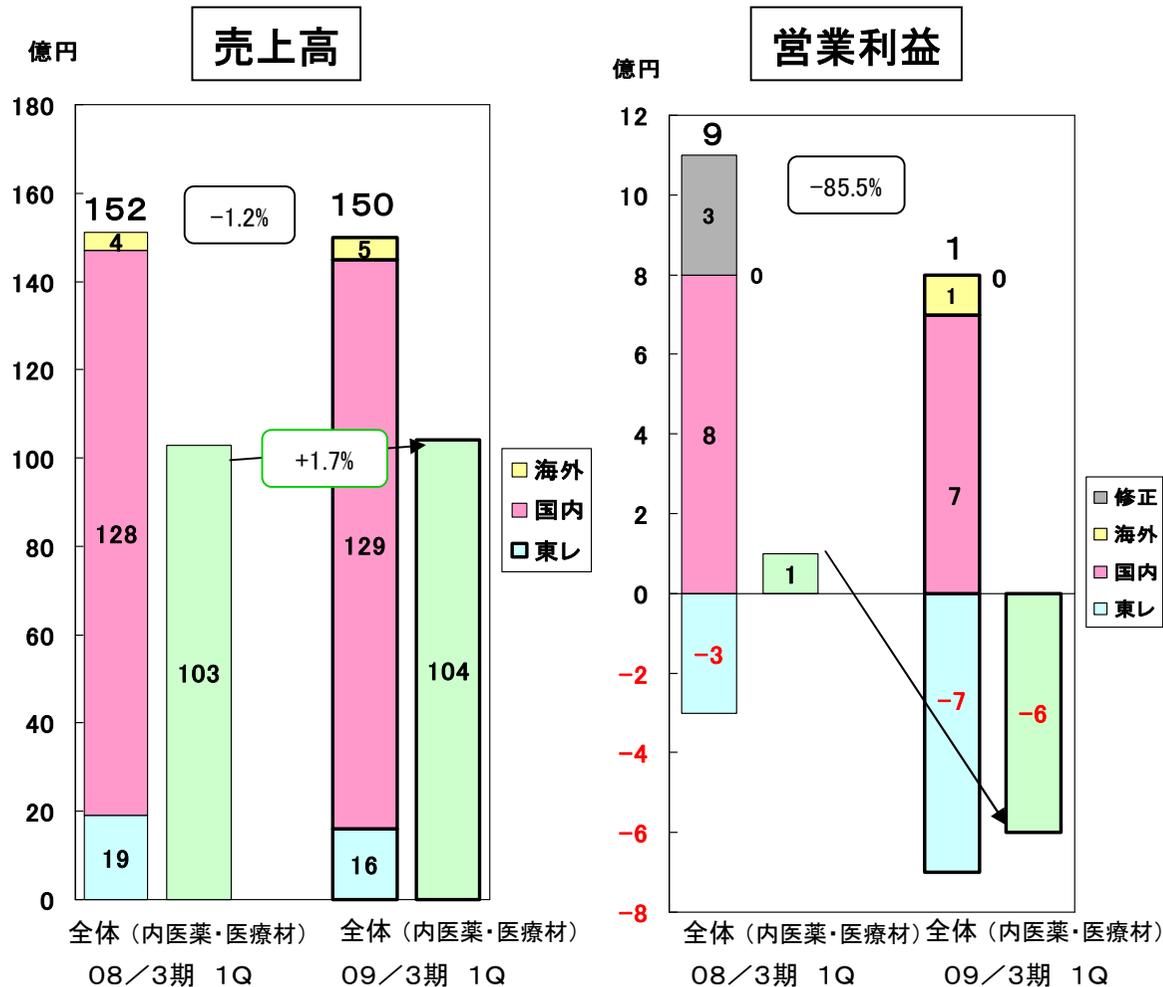
国内子会社

建設子会社が堅調に推移。エンジニアリング子会社および水処理エンジニアリング子会社は、前年同期比で工事案件が少なかったことから、減収減益。一方、商事子会社の機械輸出が好調に推移し、国内全体では増収減益。

<主要子会社>

国内：東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他)



特記事項

医薬・医療材

薬価および償還価格の改定による販売価格の下落や競争激化など厳しい市場環境のなかで、人工腎臓が販売量を伸ばし、医薬・医療材事業全体では売上高はほぼ横這いながら販売価格下落の影響が大きく、減益。

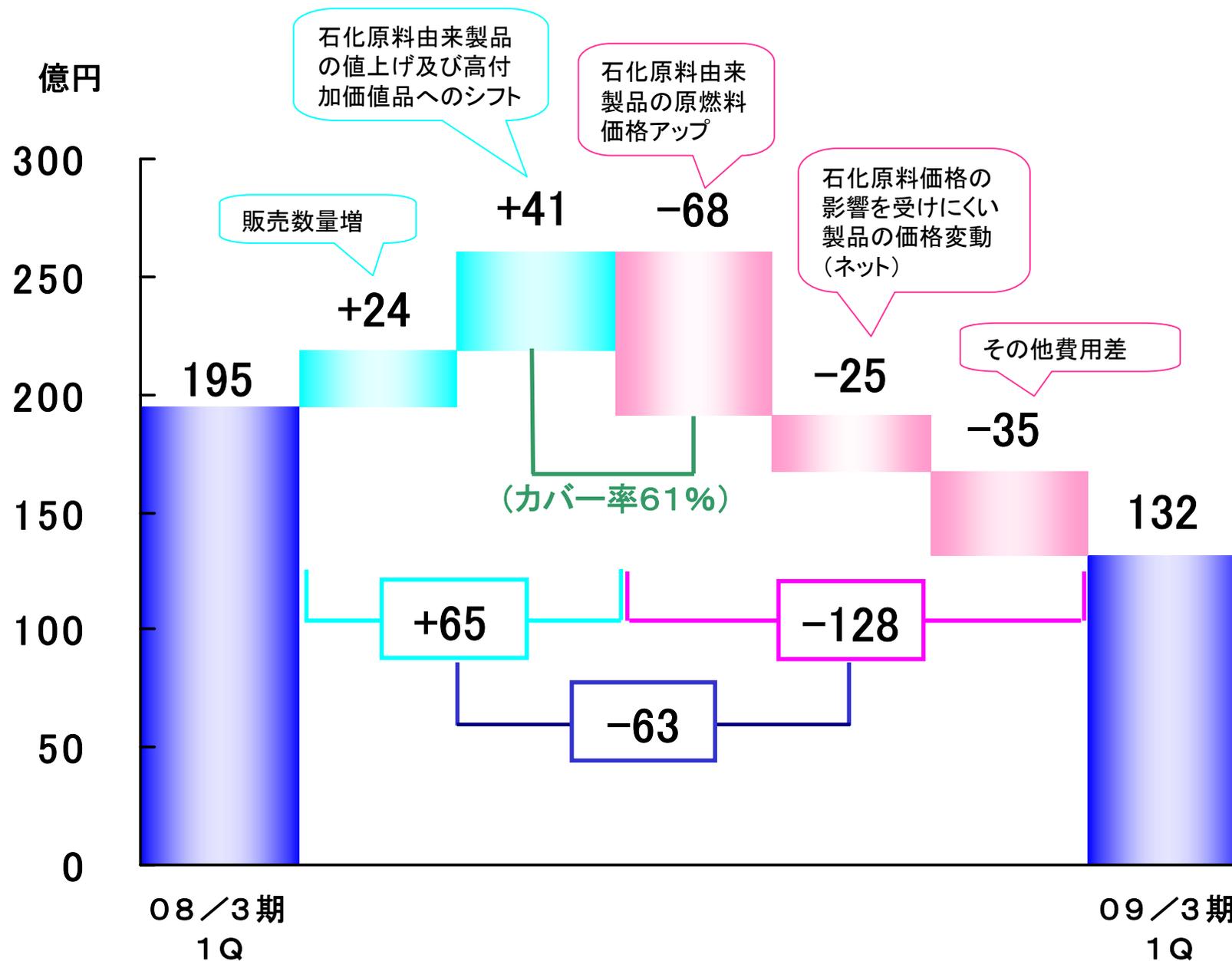
その他

分析サービス子会社が医薬分野などの分析事業を中心に好調に推移するなど、総じて堅調に推移。

<主要関係会社>

国内：東レ・メディカル、東レリサーチセンター、東レインタープライス 他

営業利益増減要因分析



Ⅱ. 2009年3月期通期連結業績見通し

2009年3月期通期連結業績見通し

単位：億円

		08年3月期 実績	09年3月期 期初見通し	09年3月期 今回見通し	対前年比増減	09年3月期 期初見通し との差異
売上高	上期	8,023	7,900	7,900	-123 (-1.5%)	—
	下期	8,473	9,100	9,100	+627 (+7.4%)	—
	通期	16,497	17,000	17,000	+503 (+3.1%)	—
営業利益	上期	440	310	250	-190 (-43.2%)	-60
	下期	594	640	500	-94 (-15.8%)	-140
	通期	1,034	950	750	-284 (-27.5%)	-200
経常利益	上期	419	260	220	-199 (-47.5%)	-40
	下期	496	600	480	-16 (-3.2%)	-120
	通期	915	860	700	-215 (-23.5%)	-160
当期純利益	上期	230	120	70	-160 (-69.6%)	-50
	下期	251	320	230	-21 (-8.3%)	-90
	通期	481	440	300	-181 (-37.6%)	-140

備考： 為替レート的前提は、105円/US\$ (7月以降)
原油価格見通しは、125US\$/B(DUBAI FOB) (7月以降)

期初見通し → 今回見通し 業績修正の要因分析と対策

営業利益： 950億円 → 750億円 (−200億円)

単位：億円

要因・対策	影響・効果	備考
原油をはじめとした資源価格上昇に伴う原燃料価格のさらなる高騰	 }  } −620  }	原油価格想定 期初：100US\$ / バレル →7月以降：125US\$ / バレル
景気減速に伴う需要減と価格転嫁推進に伴う数量減		①世界の景気減速に伴い需要の伸びが鈍化するほか、 ②価格転嫁を推進していく中で販売数量調整を行うことの影響
個別事業の問題		①B787遅延の炭素繊維複合材料事業への影響 ②医薬事業の需要の伸び悩みと競争激化 ③水処理事業拡大のための費用増
価格転嫁と高付加価値品へのシフト	 }  } +420	あらゆる事業で徹底
費用削減・コスト削減等		営業費の削減、生産効率改善等によるコスト削減、研究開発費抑制、設備投資の抑制など
合計	−200	

増減益額：  300億円以上  100億円以上  50億円以上

* 営業利益変動イメージは上向きが増益、下向きが減益

事業セグメント別売上高・営業利益見通し

単位: 億円

		売上高			営業利益			09年3月期 期初見通し との差異	
		08年 3月期	09年 3月期	増減 (%)	08年 3月期	09年 3月期	増減 (%)	売上高	営業利益
繊維	上期	3,209	2,950	-259 (-8.1%)	100	50	-50 (-50.0%)	-100	-20
	下期	3,164	3,250	+86 (+2.7%)	114	70	-44 (-38.4%)	-	-50
	通期	6,373	6,200	-173 (-2.7%)	214	120	-94 (-43.8%)	-100	-70
プラスチック・ケミカル	上期	1,994	2,200	+206 (+10.3%)	90	65	-25 (-27.4%)	+200	-5
	下期	2,046	2,300	+254 (+12.4%)	118	105	-13 (-10.7%)	+150	-15
	通期	4,040	4,500	+460 (+11.4%)	207	170	-37 (-17.9%)	+350	-20
情報通信材料・機器	上期	1,387	1,250	-137 (-9.9%)	128	80	-48 (-37.4%)	-100	-15
	下期	1,450	1,550	+100 (+6.9%)	170	150	-20 (-11.6%)	-100	-30
	通期	2,837	2,800	-37 (-1.3%)	298	230	-68 (-22.7%)	-200	-45
炭素繊維複合材料	上期	399	400	+1 (+0.3%)	82	50	-32 (-38.8%)	-	-20
	下期	437	500	+63 (+14.4%)	99	90	-9 (-9.4%)	-50	-20
	通期	836	900	+64 (+7.7%)	181	140	-41 (-22.6%)	-50	-40
環境・エンジニアリング	上期	711	800	+89 (+12.5%)	25	0	-25 (-100.0%)	+50	-
	下期	1,021	1,150	+129 (+12.6%)	73	70	-3 (-4.1%)	+50	-5
	通期	1,732	1,950	+218 (+12.6%)	98	70	-28 (-28.2%)	+100	-5
ライフサイエンスその他	上期	323	300	-23 (-7.0%)	24	10	-14 (-59.1%)	-50	-10
	下期	355	350	-5 (-1.5%)	39	30	-9 (-22.2%)	-50	-20
	通期	678	650	-28 (-4.1%)	63	40	-23 (-36.5%)	-100	-30
(内医薬・医療材)	上期	224	220	-4 (-1.6%)	8	0	-8 (-100.0%)	-30	-5
	下期	260	260	+0 (+0.0%)	19	20	+1 (+2.9%)	-40	-10
	通期	484	480	-4 (-0.7%)	28	20	-8 (-28.1%)	-70	-15
消去又は全社	上期				▲ 8	▲ 5	+3		+10
	下期				▲ 18	▲ 15	+3		-
	通期				▲ 25	▲ 20	+5		+10
連結	上期	8,023	7,900	-123 (-1.5%)	440	250	-190 (-43.2%)	-	-60
	下期	8,473	9,100	+627 (+7.4%)	594	500	-94 (-15.8%)	-	-140
	通期	16,497	17,000	+503 (+3.1%)	1,034	750	-284 (-27.5%)	-	-200

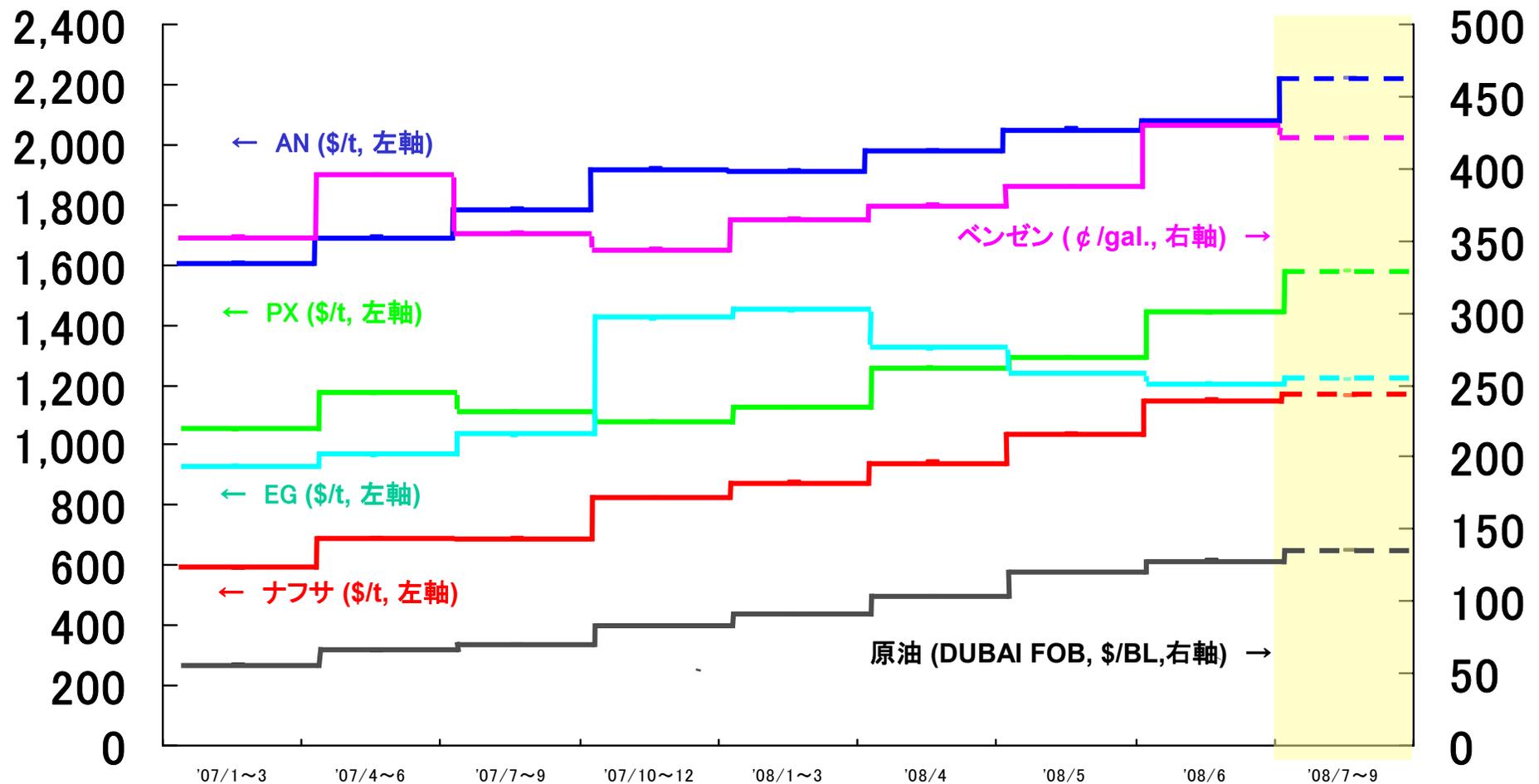
事業セグメント別通期営業利益期初見通しとの差異

単位：億円

事業セグメント	通期営業利益 期初見通し →今回見通し ()内 (差異[億円])	差異理由
繊維	190→120 (-70)	<ul style="list-style-type: none"> 急速かつ想定以上の原燃料価格高騰の影響。価格転嫁及び高付加価値品へのシフトを進めるも当期中にはカバーし切れないと見込む。
プラスチック ・ケミカル	190→170 (-20)	
情報通信材料 ・機器	275→230 (-45)	<ul style="list-style-type: none"> フラットパネルディスプレイ、電子部品向け関連材料の需要が想定を下回る。 原燃料価格高騰によるコストアップ。
炭素繊維 複合材料	180→140 (-40)	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料価格高騰によるコストアップ。 景気減速を受け、スポーツ用途の一部で需要の伸びが想定を下回ると見込む。 B787遅延の影響。
環境・エンジニアリング	75→70 (-5)	<ul style="list-style-type: none"> RO膜、MBR等の急速な事業拡大に対応するための費用増加を見込む。
ライフサイエンス その他	70→40 (-30)	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品の競争激化により販売量が想定を下回ると見込む。 期初見通していたロイヤルティー収入減。
消去または全社	▲30→▲20 (+10)	
連結	950→750 (-200)	

原料価格の見通し

原油・ナフサ価格の急騰に加え、タイトな需給バランスを反映し、ほぼ全ての原料並びに燃料が高騰している。



＜参考資料＞最近のトピックス

高感度タンパク質解析チップの開発

血液や尿等に含まれる微量の疾患マーカータンパク質を高感度で簡単に検出できる検査診断用タンパク質解析チップを開発。新チップは、タンパク質解析作業時間を従来の数時間から、15分以内に大幅に短縮可能。2009年度中の承認申請を目指して実用化開発を推進する。

従来の疾患マーカータンパク質検査



高価で大型な検査装置を用い、大手病院や検査センターでのみ検査可能

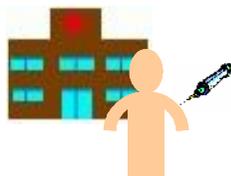
- ・解析に時間がかかる(数時間)
- ・中小病院では検査ができない
- ・救急医療への対応ができない

独自のナノとバイオの融合技術やバイオツール開発のノウハウを総合的に活用

疾患マーカータンパク質の解析に必要な試料の前処理、分離、検出など全ての操作を行える名刺半分大の樹脂製チップを開発



ベッドサイドで疾患マーカータンパク質の検査を簡便・迅速に行うことが可能に



検体採取



樹脂製チップに滴下



小型システムにセット

15分以内に
検査終了

今回開発した高感度タンパク質解析チップを、2006年に販売を開始した超高感度DNAチップに続くバイオツール事業の柱として育成するべく、社外連携も含めた開発を推進

シンガポール最大の下廃水リサイクルプラント向け 逆浸透膜を受注

シンガポール共和国チャンギ地区の大型膜法下廃水リサイクルプラント向けに「汚れにくい逆浸透膜（低ファウリングRO膜）エレメント」の納入を受注。同プラントは、シンガポール政府のNEWater政策で計画されたプラントの最後にして最大規模のプラント。造水量は22.8万m³/日で世界第2位の規模。膜納入は段階稼働にあわせて2008年・2009年の2回で分納の予定。

シンガポールのNEWater 政策

熱帯雨林で降雨量が多いが、河川・湖沼・貯水ダム等の水源が乏しく、水はマレーシアからの輸入に頼っている。そのため、国家政策として水の確保を重視。

2002年からPUB（シンガポール公益事業庁）を中心に、下廃水再利用技術を採用、工業用水としての利用や、貯水池へ供給するための再利用施設を整備。

NEWater政策で計画された最後にして最大規模のプラントに東レRO膜が採用。



今回の受注と併せて、シンガポールで採用されたRO膜エレメントの6割は東レ製

東レRO膜納入の主要下廃水リサイクルプラント

No.	国名	場所	能力 (m ³ /日)	稼働年
1	クウェート	スレビヤ	320,000	2005
2	シンガポール	チャンギ	228,000	(2009)
3	オーストラリア	ラゲージポイント	66,000	(2008)
4	中国	天津(泰達)	30,000	2006
5	シンガポール	セレタ	24,000	2004

(*) プラント稼働開始年。なおカッコ()内は建設中。

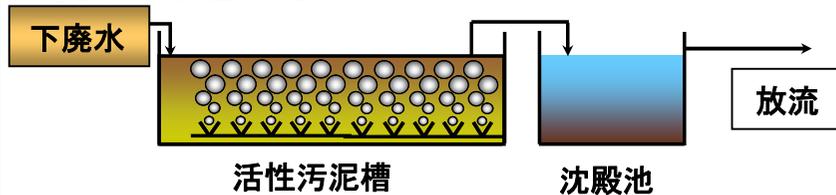
東レの「低ファウリングRO膜」はクウェート国スレビヤにある世界最大の膜法都市下水再利用プラントにも採用されており、RO膜を使用した下廃水リサイクルプラントでは、世界第1位と第2位の規模のプラントで採用されている。

アラブ首長国連邦の下水プラント向けMBR用PVDF浸漬膜モジュールを受注

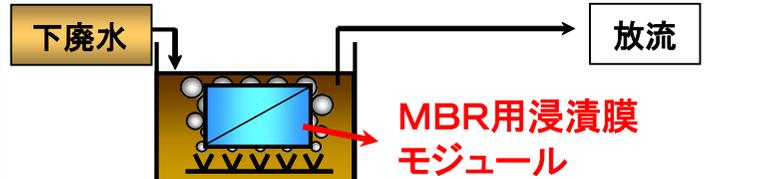
アラブ首長国連邦(UAE)の下水リサイクルプラントで使用されるMBR用PVDF(ポリフッ化ビニリデン)浸漬膜モジュールを受注、納入。同プラントはUAEのアブダビ首長国内東部のアル・アインに位置し、MBR(メンブレン・バイオリアクター=膜分離活性汚泥法)により下水を浄化し、近隣へ灌漑用水を提供。処理量は15,000m³/日(5,000m³/日のプラントが3基)で、2008年順次稼働予定。同案件に続き、UAEで処理量38,000m³/日および45,000m³/日の下水プラント向けMBR用浸漬膜を続けて受注しており、これらも今年度中に納入予定。

MBR

従来の活性汚泥法



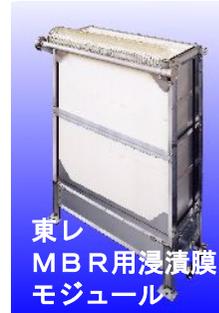
MBR(Membrane Bioreactor, 膜分離活性汚泥法)



- ・省スペース ・良好な水質
- ・余剰汚泥が削減され、環境負荷低減にも貢献

省スペースで、プラントも比較的安価なため、下廃水のリサイクルプラントに使われるMBR用浸漬膜市場は年率20%以上で急成長。

東レのMBR用PVDF浸漬膜



1. 下水処理における単位膜面積当たりの透過水量が大きい
2. 汚れにくい
3. 耐薬品性が高い
4. 消費エネルギーが少ない

中東市場:今年度は既に主に上記案件を含め、合計20万m³/日分のMBR用浸漬膜モジュールを受注。

中国市場:北京オリンピック会場での再利用プラント等に採用、産業廃水処理を中心に積極的な営業活動を展開中。



下廃水処理向けの膜需給が非常にタイトな状況

09年中にMBR用浸漬膜エレメント生産能力の拡大を計画

本資料中の2009年3月期の業績見通し、及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。